

上越民商ニュース

発行
上越民主商工会
〒943-0827
上越市栄町7-7
TEL025-524-4816
FAX025-524-3298

“核兵器のない世界を”訴え 国民平和行進2017が上越市を行進

全国11幹線コースで取り組まれている国民平和行進は、6月29日午後6時に柏崎部隊を直江津平和記念公園(川原町)で出迎え、直江津海浜公園(水族館隣)で引継ぎ集会が行われ、翌30日は午

前9時に直江津海浜公園にて出発集会、9時30分に出発し、12時に雁木通りプラザに到着。その後、上越市役所、妙高市役所を訪問・懇談し、午後5時20分に関川道の駅にて長野県の部隊と引継ぎ

集会を行ないました。

29日の出迎えと引継ぎ集会には青木事務局員が参加。30日は、直江津海浜公園から木田までの間を金井事務局員が、木田から雁木通りプラザまでの間を岩沢健副会長が行進しました。

行進は両日とも約35



「一歩でも二歩でも一緒に歩きましょう」と上越大通りを行進する参加者

人が参加し、宣伝カーからは「72年前の8月6日広島、9日長崎に、アメリカは原子爆弾を投下しました。たった1発ずつの原発は、一瞬のうちに2つの街を破壊しました。そして、その年のうちに21万人もの市民が尊い命を奪われました。かろうじて生

き残った被爆者のみなさんは心と身体に消せない傷を負わされながら、再び被爆者をつくるなど世界へ呼びかけています。」とスポットが流れ、参加者は「核兵器禁止の条約つくれ」「被爆者の願い忘れるな」「安保法制なくそう」「憲法生かさ

う」と道行く人に呼びかけながら行進しました。

2年ぶりに参加した岩沢副会長は、「行進ルートには民商会員さんの店があって、僕に気が付いてくれて大きく手を振ってくれた。蒸し暑い中だったけど、元気をもらいながら歩くことが出来まし

た。ヒロシマ・ナガサキの悲惨な惨状を糧に、国連で行なわれている「核兵器を禁止する法的拘束力のある協定について交渉する国連会議」で核兵器が違法であると決議されることを期待しています。」と平和への思いを語ってくれました。

ビジネススキルアップセミナー

初めての 事業計画書作り

□7/30(日)13:30~ □新潟ユニゾンプラザ □1,000円

★自動車乗合車で参加。民商11:00出発。途中高速SAにて昼食(自己負担)★特に青年を中心に参加募集中!



出発集会で挨拶する本間平和委員会会長 6/30直江津海浜公園

夜の街オリエンテリングは 9月6日(水)18:40開会式で実施

第7回目となる高田夜

の街オリエンテリング。

今年は9月6日(水)、午後6時40分開会式、7時スタート。2時間で指定さ

れた4店舗を探し当て飲み歩く基本ルールや参加費3,000円は前年と同じです。後援や協賛の確認



他の参加グループとも意気投合。楽しく飲み歩けるのが夜オリの特徴

も進み、チケット販売所はセブンイレブン上越藤巻店・川原町店・新井学校町店に加え、新たに「ローソン上越高田駅前店」「高田本町まちづくり(株:本町5)」でもお買い求めできることになりました。

友人知人を誘い合って、夜オリに参加しましょう。

チケット販売は
7月中旬~8月19日まで

チラシ・チケットは間もなく完成予定です。完成次第、各支部に振り分ける他、コンビニ等でお買い求め出来る手立てとなりますので、お早めにお買い求めください。

上越民商は先の定期総会において、事務局の世代交代期を迎え、新たに事務局員を募集する事と致しました。

事務局員の仕事は、役員と一緒に中小

民商事務局員を募集します

業者の営業・暮らしを守ること。中小業者の「困った」を「希望」に変えるやりがいのある仕事です。

□募集人数は1人。 □仕事内容は、事務

全般となります。 □勤務条件としては、
*勤務時間午前9時から午後5時。 *完全週休2日。 *社会保険・雇用保険、退職金制度があります。

□応募要領は、*履歴書を添えて上越民主商工会宛に郵送またはご持参下さい。書類審査の上、面接を行ないます。

(担当:藤縄康夫)



午後7時、400人の参加者が一斉に街に繰り出す光景は圧巻です。

上越民商第53回定期総会での記念講演・その2(要旨)
講師 高橋武昌・新潟民商会長

県連で取り組んだアンケート。
米山知事に会いに行きましよう。我々が当選させたんだから我々の要求を出そう・ぶつけよう」と取り組みました。

アンケートやってみてびっくりしました。困っていることがいっぱいあるんですね。まず3つ。

1つは「消費税何とかしてくれ！」
2つ、「国保が高い。どうかしてくれよ！」
3つ、「介護。どうしてくれるんだ！」この3つがダントツ多い。知事にあったらそう言って理解を求めなければならない。特に介護がすごいですね。

そこで、要求の大事な事一つだけ申し上げます。

新潟県の人口は減っています。上越市も人口減で際立っています。これと要求の関係ですが、今政府は地方創生という方針を取っていて、地方創生は金も人も出します。但し努力しない自治体からは金を引き上げます。だから合併しなさいと言う風にして淘汰していく。ところが、地域間の競争ではなく、自分たちの地域が豊かになることが大事。以下の街はどこも出生率2%に近い。北海道東川町、木工の工場とかたくさんあります。福島県大玉村、長野県原村、長野県下条村、高知県大月町、島根県ゆいなん町、島根県隠岐海士町、島根県雲南市。全部出生率1.8~2%。なぜそうなるのか？

とにかくそこに住みたい。そこで生きたい。そこで人生を送りたい。そういう街なんです。島根県隠岐海士町は人口3,200人。ところが人口はUターンなどで800人増え4,000人の街になった。まず、街の子ども連れのお母さんが、子どもを預けて働く。海士町は海の生産、魚の生産をやって工場にして全国に売り出している。この街の何が良いか？なんてったって子供に金がかからない。保育料無料。報奨金がもらえる。医療費は、すぐに病院に係るからそれほどかからない。何より住む場所。家が無償か安く提供されている。だから3,200人の街に800人も行っちゃう。



何が言いたいかというと、さっき米山知事へのアンケートの話にあるように、今困っているのは消費税・国保・介護…これに出来る県政をやってもらいたいんですよ。若い人は余裕がなくて、子どもを預けて仕事に行っちゃうんだから。でも私たちの世代はまだ余裕があって、子どもの送り迎えも含めて、お金も含めて援助している。我々世代の要求でもあるんです。だから、公的な問題はつかんで離さない運動が必要なんです。このことがなかったら若者はいられません。そのことがあって、私は要求の一つに入れて活動しています。

さて、青年部の事です。青年部、私たちは毎月対策会議をやっています。いま大事なことは青年部アンケートです。

青年部アンケートは項目が沢山あって書かなきゃならないので時間がかかる。立ち話じゃ出来ないのだからどうするか、先月も今月も2回に渡って「アンケートをどう回収するか」で話し合いました。青年部を育てると言ったら、我々が、皆さんが本気でやらなければならない事です。青年の皆さん。中間層が大きくななくちゃ、60代、70代がいっぱいの民商では、これから困る訳ですから、中間層を膨らませるためには、絶対に切らずに運動しなければならないと、私が特に意識してやっていることです。

最後になりますが、拡大のことについて触れます。

マイナンバー制度で管理されて、保険制度にリンクされて、ワンカードになって…すべて管理されてしまう。徴兵制になれば、ここの家はこの程度の経済力だからと…そんな危険なものをやらせることはいけないという事を新聞で知らせる。口では中々うまく言えないからね。この新聞に「こういう風に書いてある」だから読んでみてと。私たち業者がこれほど困難な中で頑張っているのに、その中身を知ってもらう。「同じ経験でしょ。これ読んで理解してほしい。」という事になりますと、意外と読んでくれる人はあります。

近所のTさん。子供さんが独立し花器の販売をして、売れて売れてしょうがなかった。ところが、売れた物は全部メモ書きに…帳簿なんて思ってもいなかった。インターネット販売の消費税が3年間の調査にあって彼はパニックに。母親が、私が民商役員であることを知っていて、「助けてほしい」という事ですぐ会員になってもらいました。なんでも、イン

ターネット関連を調査する税務署員がいて、やっているというんですね。だから仲間になってもらわなければならない人は大勢いる。だけど出会わないだけなんです。

なぜ出会わないか？一つの理由になると思っていることは、「ここの地域で住宅リフォームがあって、商店版リニュアルがあって、こんな地域どこにあるの？業者の皆さん知ってよ！」「マイナンバーこれ酷いよ。大変だよ。知ってよ！」という風に言える場がないからです。集まればいろんな話しますけど、やはり支部会で集まればなんだかんだ話しが出てくるんですよ。だから全支部が支部会議をやろうと掲げているんです。場がないと話が出ないんです。

誰かいませんかと紹介出してもらうことも大事だけど、網の目のように地域に根を張っている皆さんの仲間と話し合う場。民商ならではの支部会議。これを盛り上げて、これ以上出来ない位やってみるのが今とても大事だと思っています。

最後のまとめです。資料の詩「彼らが最初共産主義者を攻撃したとき」をご覧ください。

□彼らが最初共産主義者を攻撃したとき、私は声をあげなかった。私は共産主義者ではなかったから。

□社会民主主義者が牢獄に入れられたとき、私は声をあげなかった。私は社会民主主義者ではなかったから。

□彼らが労働組合員たちを攻撃したとき、私は声をあげなかった。私は労働組合員ではなかったから。

□彼らがユダヤ人たちを連れて行ったとき、私は声をあげなかった。私はユダヤ人などではなかったから。

□そして彼らが私を攻撃したとき、
私のために声をあげる者は誰一人残っていなかった。

今こそ闘う時です。悪政には拡大で対抗しよう。仲間を大きくしなければ闘えません。「民商・全商連の良さ・値打ちを伝えよう。」と全商連は言っていますが、ここにもう一つ付け加えたい。民商・全商連の良さ・値打ちを『確信をもって豊かに』伝えよう。確信を持って、豊かにするためには学習と行動です。ぜひ頑張りましょう。